



その「不安」はみんな感じるものさ。だから、君も感じて一歩を踏み出そう！

松戸市立六実中学校

第3学年・進路通信

NO. 16

令和2年11月27日

# 道標～みちしるべ～

～ 受験を迎える、母校の後輩たちへ～

進路指導主任、渡邊です。どうですか、受験に『不安』を感じていますか？『不安』という言葉に、ピンとこない人は『怒り』でも良いでしょう。これ以上ない程、受験に対して『不安』や『怒り』を感じていませんか？その『不安』や『怒り』は、誰へ向けたののですか？親ですか？君ですか？先生ですか？

私は、これまでの経験から、受験とは『不安』ではないかと思っています。なぜなら、この進路を決めるのは誰でもない自分で、そんな道を選ぶのは人生初なのですから、不安で当たり前です。そして、「受験の結果は自分次第」と言いますが、実際の結果は高校側が最終決定をするわけです。私は、見えないハードルを前に、情報を頼りに飛び越えていくような感覚を持ち、不安な受験したのを覚えています。

その『不安』を消す方法があります。それは二択です。『不安と戦う』か、『不安から逃げる』かです。

3組には少しだけ話しましたが、私は『逃げる』を選びました。私は、受験から目を背け続けたんです。逃げたいのに逃げられない状態は、いずれ『怒り』の感情に変化していきます。受験が不安で恐く、逃げ、怒りの感情を持った中学生だった私が、今、君達に思うことは、私のような、『残念で悲しい受験をしないように』です。なにかの参考になれば…。

私は受験に、とても不向きな中学生だったと思います。理由はいくつか挙げていきますが、まず端的に言うならば『弱い子』だったからです。よく受験は「自分との戦い」と言いますが、私は『弱い子』すなわち、『自分と戦えなかった中学生』でした。自分のコントロールができず、誰かに流され、外へ逃げだしていた私を振り返ってみると、今だから分かる3つの失敗があった様に思うのです。

## 1、「反復力の不足」～受験勉強は「ノート」だけじゃなかったんだ～



親からいつも言われていたこと『ノートを取れ。ノートが全てだから。』それは守っていたように思います。授業は部活で眠くて、意識が朦朧…。ですから、授業での理解度は40%と言ったところでしょうか。私の定期試験の勉強方法は授業ノートを持ち帰って、「家用ノート」に殴り書きをして写すだけの方法。家用ノートは、使いかけノートの残りページや広告の裏面です。『書きまくって手で覚えろ!!』の暗記作戦で何とか平均点は獲れるのですが、知識にはならず、到達度テストでは全く役に立っていません。

私は勉強が嫌いで、周りの勉強が出来る人は『違う人種』と決めつけ、逃げ続けていました。そんな、私に本当の勉強方法を教えてくれたのは「ちづるさん」という教師1年目の24歳の時に出会った生徒です。

『先生。私、ワークを何回か解いてみるんですけど…。』

『いつもここだけできないっていうか、納得できないんです。』

私が『へえ～、納得か。何回くらいするの?』と聞くと『まだ、5回目くらいですかね～?』と答えてくれました。思わず『ワークなんて、そんなにやるものなの?』と聞く、私。自慢じゃないですが、私だって答えを写してワーク提出する中学生でしたから!!笑

ちづるさんは『私は(自分の中で)当たり前かも。復習の数を積み重ねる事が大切だと思ってるんで♡』とニコッと笑っていました。彼女は部活動でも練習を積み重ね、関東陸上や総体に出場し、成績も大変優秀で、今は教師をしています。

当時の私に言ってやりたい、『ワーク5回やれよ!』と。さらに『勉強は「何でだろう?」とか「なるほど」って納得するもんだぞ!』と。学習習慣がこんなにも長きに渡って人生に影響されるなんて、当時の私は思いませんでした。この勉強方法と学習習慣ができたていたら、もっとスムーズな高校選びができただろうし、大学も浪人しなかっただろうし、教員採用試験もすぐ受かったんだろうと思います。『反復力』はすごく大切です!!私がテスト前に言う『ワークいつまでに終わらすの?』は、自分の反省と、ちづるさんのアドバイスから来ています。

## 2. 「分析力の不足」～何が分からないかが分からない～

先生、親、塾の人、友達にいつも聞かれる「テストどうだった?」。この返事は、いつも同じパターン『う～ん、まあまあ』か『ビミョー』です。今では「それ、聞いているこっちがビミョーです」という立場ですが、その当時の私は「どこから手をつけていいのかわからない」症候群でした。

- 1、手応えがない(予想が結果とズレすぎる)
- 2、授業でやった問題を、少しひねられると解けない(応用はダメ)
- 3、答案に自信がないので、記号で「ウ」が3回並ぶと、ドキドキして「イ」を入れたがる(特に英語)
- 4、目の前の一問はできるのに、テスト用紙で散りばめられるとできない
- 5、到達度テストの範囲を見ても、出そうな問題が想像が付かない
- 6、入試問題が実は単元ごとになっていることに気がつかない



ここで必要なのは『**分析力**』です。分析力が非常に必要だと感じたのは、5年前教員採用試験の時です。1年間に、1回の試験を2回受験して、中学時代と同じで、手応えゼロ。学習習慣とは恐ろしいもので、最近まで私は何も変えられなかったのです。3回目が不合格だったら、体育の先生を目指すのをやめようと思った最後の年、分析から始めました。分析は4ヶ月かかったのでしょうか。教員養成予備校や様々な先生方から助言をもらい、分析力を磨きました。

分析をすると、自分のやり方で不足している分野や手をつける箇所、試験のねらいを間違っていたことに気づきました。もし、間違ったまま続けていたらと思うと恐ろしいです。分析時間は、私にとって大切な時間でした。

その試験で人生初の手応えを感じ、11倍を超える試験を突破しました。自分と相手(試験)をよく知る事は大切です!

## 3. 「幼い自分」～コントロールが効かない自分～

受験という戦いを乗り越えられなかった一番の理由は、『**幼さ**』です。ここまで読むと、いかに私がポンコツだったかは分かると思います。心のどこかで『逃げたい』『何とかできるのでしょ』『今じゃなくても』『いつかやるよ』『ちょっと成績上がってきたし』と思っていたのですね。君達の教室でも、この言葉を使う人がいますか?良くないのですが、非常に共感できてしまう私。私の中学時代の失敗、要するに『このままいくと、どうなるか』を教えたいと思います。(私みたいにはならないと思いますが…)

合唱祭を終え、12月1日になり、急な焦りが生まれます。一つ目は模試の点数が伸びないこと、もう一つは私立の抑えの学校がないということです。理由は、私立のB推薦(併願推薦)制度を理解していなかった上に、通知票の基準は足りておらず、『どちらにしても無理だ』と、焦りが大きな津波のように押し寄せてきました。大人からすれば『ほら、言わんこっちゃない』と言う状況でした。担任と顧問が、塾でも家でも、周りの人は口を開けば『勉強してるか?』でした。そんな逃げ場がなくなった頃の話。

大爆発は親の言葉でした。親とは不思議なもので、こちらが休憩をするとそのタイミングで見に来るんですね?そして『まだ始めたばかりじゃない?ちゃんとやってるの?心配なのよ。また、音楽聴いてやってない?おくんも頑張っているよ?高校行ってバレーボールしたいんじゃないの?そんなんで将来の夢、叶うの?』と。今になって思えば、親も不安だったのだろうと想像はできるのですが、当時の私は理解も出来ずに、ついに爆発しました…。

**うるせー!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!** と言い放ち、物を投げ食器棚のガラスを何枚も割り、扉を蹴り壊し20cm位の穴を空けて暴れました。そして、それだけでは終わらず親を殴り、家出をしました。当時の私は心も体も幼く、感情のコントロールは出来ずに泣きながら暴れることしかできませんでした。その夜はフラフラし、友達の家に行きました。しかし、親は私を迎えに来て『暴れても連れて帰る!』と一点張りで友達も迷惑そうだったので帰りました。家出は、そんなに長くしなかったのですが、夜はしょっちゅう出るようになりました。すると、今度は親と弟が家を出ました。それからの夕食は一人でした。その静かな家で、自分の弱さと向き合った『虚しい時間』と、『逃げちゃいけない!受験生にならなくちゃいけない!自分の人生を決めるのは自分!』と机に書いたのをよく覚えています。

君達が私の様になるとは思いませんが、一つ言えるのは**心の幼さ**は受験では大きな痛手を生みます。原点に立ち返って『頑張る時期に、頑張る自分』と向き合って欲しいのです。君の辛さもわかるけど、ただ仲間で慰めあっても不安解消にはなりません。『あいつと一緒に頑張ってる!』っていう支えが、自分と仲間の力になるのではないのでしょうか。

